

# NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

JIA 長野県クラブ



Vol.74

2007

06.20

## 「春を惜しんで」――

JIA長野県クラブ会長 西沢 利一

去ろうとしている春が、里から山に向っていろいろな花を残していく。けむった木々の新芽が空に溶けていく……。

長野県クラブの総会も終わり、支部、本会、その他関連団体等の総会が一段落し、いよいよ今年度の活動が始まろうとしている。

「信頼される建築家」がテーマであるが、永遠の宿題でもある。JIAは個人が直に反映できる数少ない団体でもあるが、逆に言うと個人の資質がいつでも問われている。質の高い建築をめざして精進するのは当然の事だが、同時に社会・文化的な視野を持つ事を要求されている。戦後50年余、莫大な建設投資をしてきたが日本は一向に美しくならない。緑や農地がどんどん姿を消して、量的には拡大し続けたが、質を省りみる余裕がなかった。

昨年には建築士法や基準法の一部改正が行われたが、希薄な膨張の限界を迎えた土地行政、建築関連法制の大きな見直しの時期に来ていると考える。年々ぶ厚くなる法令集を見ても感じる事だが……。環境、社会システム、技術、人、全てにおいていかがわしさを感じているが、建築家という存在について言えば、自分達の仕事を、自ら作品と唄つてい

るうちは確立できないような気がしている。

あるタウン誌で、主婦向けにエコ生活とは?という話をした。便利になるということは、心も体も怠ける事、本当に必要かどうかもう一度考えようという事。つくられたエコはどこかでエコでない事をしている。「物から心へ」、お金がかからなくてできる事から始めよう、と言う事だがこれが仲々難しい。

1.不要なものは身につけない 2.簡素な暮らしをしよう  
3.土に触れよう 4.花のある生活をしよう 5.木を植えよう  
6.日の光や風を感じよう 7.静かな生活を心がけよう。

ストレス社会なので、物でストレスを解消しようとする。我々はもうすでに十分に物に毒されているのだが、ここで一歩立ち止まる必要がある。物があふれる事によって本物が見えなくなっている時代に、再び心を取り戻そうという提案。小さな事から意識的に活動して行く事が「信頼される建築家」に一歩でも近づくものと思っている。美しい日本の春がなくならないうちに……。



## JIA建築家憲章(平成17年5月27日改訂)――

建築家は、自らの業務を通じて先人が築いてきた社会的・文化的資産を継承発展させ、地域環境をまもり安全で安心できる快適な生活と文化の形成に貢献します。

●創造行為／建築家は、高度の専門技術と芸術的感性に基づく創造行為として業務を行います。  
●公平中立／建築家は、自由と独立の精神を堅持し、公平中立の立場で依頼者と社会に責任を持って業務に当たります。

●たゆみない研鑽／建築家は、たゆまない研鑽によって自らの能力を高め役割を全うします。  
●倫理の堅持／建築家は、常に品性をもって行動し倫理を堅持します。

社団法人日本建築家協会(JIA)会員は上記憲章のもとに集う建築家であり、JIAは会員の質と行動を社会に保証するものです。

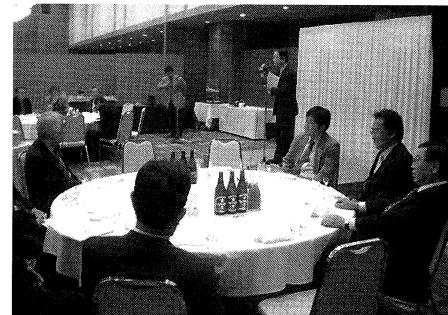


2007年度通常総会(5/12)

2007年5月12日（土）、「2007年度通常総会」がホテル国際21（長野市）で開催されました。その後、第16回長野県学生卒業設計コンクールの表彰式、長野地域会の会員集会（伊平支部長をお招きして）、懇親会が盛大に行われ新年度がスタートしました。そこで長野県クラブ副会長に今の思いを語っていただきました。



会員集会(5/12)



懇親会(5/12)

## 所 感

JIA長野県クラブ副会長 赤羽吉人



新会長が「西沢らしさ」を発揮しつつ1年が過ぎた。副会長として十分にサポートできなかったことを反省している。

今JIAは、公益法人化に向けて大きく方向転換を図ろうとしている。その際の組織形態を検討するワーキンググループがJIA本部に設置され、私はそのメンバーとして検討会議に参加させてもらっている。そこで見えてきたJIAの方向性について簡単に紹介させて頂く。支部と地域会のあり方については、基本的に現在の「3階建て」構造を踏襲し、本部定款の中で地域会について明確な定義付けを行うことになると思われる。それと共に、会費或いは会費に準ずる費用についての本部以外での徴収根拠の明確化も行われると思われる。

支部での2年度に渡る特別徴収は、非強制といつても半ば強制の響きはある、異常事態を何年も継続するわけにはいかないというのが私個人の所感でもある。

本部、支部の会議に出ると、我が「長野県クラブ」が非常に高い評価を受けていることに感銘を受ける。70名弱の人数ではあるが、地元に根付いた地道な活動を続けていればこそその評価であると思う。賛助会員の皆さんとの連携を保ちながら、活動を続けていきたいと思う。

今年については、以前からの課題である地域に向けた有効な情報発信を試みたいと思っている。広報委員の皆さんに大いに期待しつつ、突飛なアイデア募集中。

## 建築家は社会とどう繋がっているのか

私達建築家は、市民社会とどう繋がっているのだろうか。どう繋がっていけば良いのだろうか。一人一人が丁寧に、また真摯に建築を創造するという自分の仕事をし続けることが、社会に対する貢献であり、そのことにより社会と建築家は繋がっていると考えることができる。発注者が満足し、環境や景観にも配慮し、美しい建築を創ることで社会に貢献できる。

【法律と制度での繋がり】いま歯磨事件を発端として建築士法と基準法が改正され、構造設計、設備設計の一級建築士が制度化され、建築家は（統括・意匠担当）は只の建築士となりました。行政における建築設計監理の入札等発注問題。長野県のプロポはそれへの参加が少ないことを理由の一つに入札に逆戻りました。国や県・市における設計と監理の分離発注の問題。設計施工一括発注問題。そしてこれらに対しJIAや他団体の意見書などが国交省に提出されたこと。私達の日常の考え方や行動が、豊かな社会にとって大切な建築家の職能を社会から疎外していないだろうか。私達の活動の基本となっ

## メリットは動くこと！

過日、関・甲・信支部第1回目の常任幹事会（新旧引継ぎ）に出席。伊東市川奈にて東京・岩本組の所有となる「川奈俱楽部」の研修をかねての開催。建物は建設会社の厚生施設、設計は吉村順三氏である。全体を分棟化し、樹木が多い斜面の地形に同化させている。概観からはこれが吉村作品？と思わせるほど周辺の住宅と変わらぬ佇まいである。ところが、中に入ると一変して吉村さんの作風に包まれる。低く抑えた天井、真面目で頑固なディテール、人の目線、スケールを読み込んだ空間構成などきわめて丁寧な作品に、建築家・職人として品格を感じた。同時に、この建築を任せた人（施主）に感銘する。残念ながら翌日の予定があり、会議を終え懇親会半ばにして帰途についた。

さて、支部も新年度を迎えた。本年度の活動方針の軸は「JIA 20周年記念大会に向けて」昨年度から懸案される「支部財政問題」、「建築家資格制度」そ

## 己殺而己生

JIA長野県クラブ副会長 川上 恵一



建築設計は仕事である。設計行為を通して施主の夢を実際のかたちにする仕事である。職人的専門職で、さらに言うならサービス業であると考えている。建築作品をつくっているわけではない。

残念ながら私自身は直接手を出して建築を造ることはほとんどの場合できないが、建築デザインという分野でのみ力を蓄え発揮することはできる。というよりそれしかできない。

ところでデザインするとはどういう行為だろう。建築デザインもそうであろうがデザインとはすべて心地良くするための工夫だと思う。施主の依頼を受けて最小の費用で最大の効果を生むべく考える仕事である。施主本人には勿論の事、地域や時代にあった心地良さを提供できるよう工夫して仕事をする。その対価としてお金を頂く仕事である。とするなら主役は施主であり設計者はあくまで脇役である。勿論、偉大なる脇役でありたいと思うが、だからといって施主以上にはなりえない。ともすると一生懸命やった事が目立ちすぎ世間に受け入れられず環境を悪くしてしまう場合もありうる。そうしたことのないようシカと心しなければならない。つまり我々は仕事を通じて地域社会に貢献するという高い志をもしながら、しかし脇役に徹してまず己を殺して世の為人の為に働くことだと思う。それが結果として評価されることがある。それしか我を生かす道はないと思うのだが・・・。

## JIA長野県クラブ副会長 児野 登



ている法律的・制度的な事柄の最近の変化は建築家の社会に対する貢献を不要にしていないだろうか。

【市民社会との繋がり】新潟や北陸の震災に対する応急危険度判定、また木造耐震診断で住宅の安全性に目を向けて市民の生命や財産を守ることは、建築家の社会的活動とは関係ないのだろうか。私達はどのように市民社会と繋がっているのだろうか。

私達は建築家の存在意義や設計の必要性を多くの市民に理解をしてもらう努力を行なっているところです。「愛と情熱の家づくり」第4集もその一つと理解しています。いま日常的な私達の行動がその答えとなって一つ一つ私達の身に覆いかぶさっています。できる限り大きな視野で社会を見通すと共に、身近な部分を大切に見つめていかなければならないと思っています。

## JIA長野県クラブ副会長 久保 隆夫

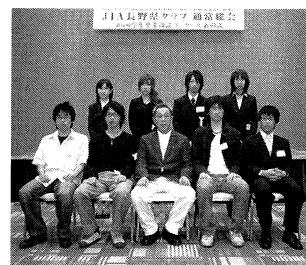


して「公益法人化に向けて」などなど課題は多い。殊に今年10/17～20に開催する「JIA20周年記念」は着々と準備され、長野県クラブは運営部会を担当する。正会員には日常の仕事だけに紛れず、信州の建築文化を担う職能人として大勢の参画を期待します。長野県クラブも設立以来20周年を迎えてます。支部では從来からの当クラブの財政、運営、活動が「長野モデル」などと高く評価されています。長野県クラブでは活動を通じて会員個人の資質の向上を図り、社会に応えていくことを大義としている。新年度は全会員が、他人任せでなく自らそれを実現するために動きましょう。

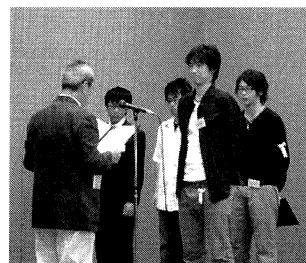
通常総会の終了後、第16回長野県学生卒業設計コンクールの表彰式が行われました。公開審査会は3月18(日)19(月)の両日、県内の大学の部・専門学校の部・高校の部に分かれて行われ、その審査結果を報告致します。

## 卒業設計コンクール 受賞者

賞名	学校名	受賞者名	作品名
大学の部	金賞 信州大学工学部社会開発工学科	望月 翔太	yokohama Artist Complex
	銀賞 "	武智 靖博	AWAKING ONDERWORLD
	銅賞 "	新宮 隆章	都市の休息
	奨励賞 "	戸成 一平	link
専門学校の部	金賞 上田情報ビジネス専門学校	大日方 裕美	Haus im Wald
	銀賞 上田情報ビジネス専門学校	早川 友梨	緑の中で
	銅賞 国際コンピュータービジネス専門学校	小松 明日香	ファサード in 信州
	奨励賞 上田情報ビジネス専門学校	田辺 将太	辿り着く場所
高校の部	金賞 長野工業高校	柳澤 崇成	大空保育園
	銀賞 長野工業高校	前島 克行	FLOR + AGUA
	銅賞 飯田長姫高校	蒲 亜由美	自然ふれあい保育園
	奨励賞 長野工業高校	内山 雄基	長野県立美術館



受賞された皆さん



表彰式の様子

## 2006学生卒業設計コンクール 「審査講評」

審査委員 西沢 利一

今年度から形を一新して、毎回ゲスト審査員を迎える事にした。今年は、ジョージ国広氏にお願いした。大変ほがらかな人で、一緒に審査した私達も楽しかったし新鮮な感覚を感じた。

大学の部で金賞の望月さんは、都市における塊を表現した。我々で言う、建築個体距離のバランスがよく、テーマとして成立するかは別として総合力を感じた。銀賞の武智さんは、個の建築としては無理もあったが相当努力した。あとは周辺との関係性があれば高い飛躍をしただろう。銅賞の新宮さんは意表をつくテーマの割に身近に感じた。しかし休息という所が単に人間の休息ではなく、テーマの都市という視点から捉えられたらおもしろかった。奨励賞の戸成さんも力作である。Linkが鳥瞰でしか感じられない点が悔やまれる。

専門学校の部で、金賞の大日方さん、銀賞の早川さんは、ある意味で衝撃的だった。おそらくこの時代に疑問を投げかけていて、大学生よりも鋭敏かもしれない。大日方さんは、ミニ開発されたオモチャ箱をひっくり返したよ

うな住宅団地に不満をもったのだ。早川さんはもっと虚無っぽく、現在の建築全てのものに懐疑的になっている。銅賞の小松さんは、ミニマムなテーマにしぼってこれこそ努力賞である。奨励賞の田辺さんは、考え方が明るくてよい。このまま伸びて行って欲しい。

高校の部で金賞の柳澤さん、銀賞の前島さんは、空間に気づいた。高校生にしては格段の進歩である。指導された先生に敬意を表したい。銅賞の蒲さんは堅実であるが、こういった時期も大切である。奨励賞の内山さんは、製図能力を高く評価した。小さな所から建築に近づくのも必要かもしれない。

入賞された皆さんに改めて祝福したい。今後は自信をもって頑張って欲しい。今回は全体に考え方としてコンパクト感があった。建築として大きな観点からのストーリー性を今後期待したい。

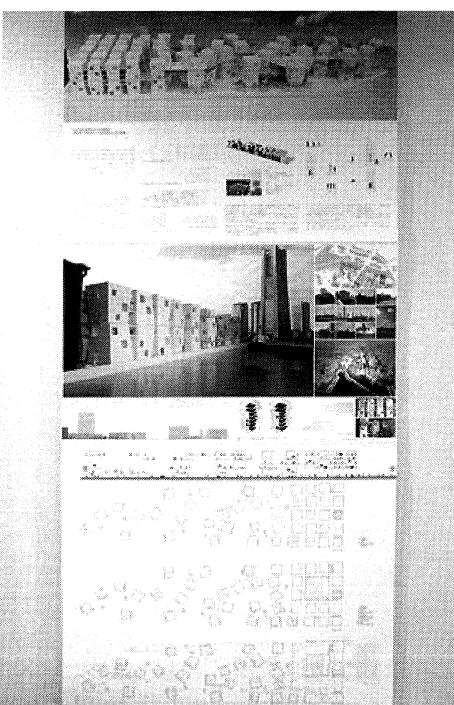


### 審査委員（敬称略）

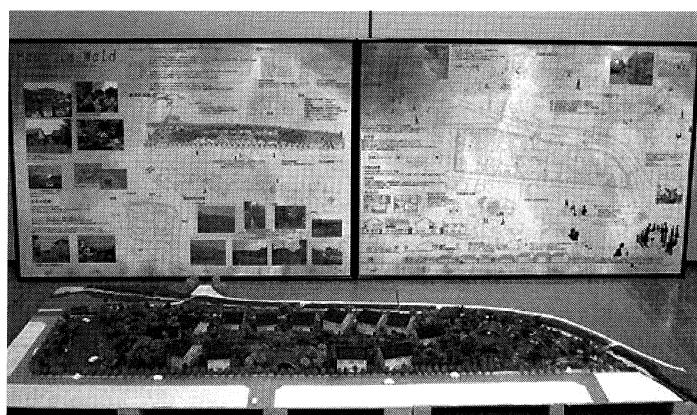
特別審査委員／國広ジョージ（国士館大学教授）

審査委員／上山寛（新潟地域会）、米田雅夫（群馬地域会）、長田孝三（山梨地域会）、土本俊和（信州大学教授）、

西沢利一（長野県クラブ会長）、甘利享一（長野県クラブ幹事）、新井優（長野県クラブ幹事）



大学の部 金賞 望月翔太さんの作品



専門学校の部 金賞 大日方裕美さんの作品

### 受賞感想（大学の部 金賞）

信州大学工学部 望月 翔太

「偶然性」をどう扱うかについて、今回の講評会でまた考えさせられた。そして自分の「偶然性」の扱い方のいい点、悪い点がハッキリと浮き彫りにされてきた感じがする。また指摘されたプログラムに対するスケールの大きさ、さらに1つ1つのボリュームの大きさなど、「偶然性」以外の問題点はいくつもあることもわかった。今回金賞をいただいたことで、今までよりもまた少し深く建築について考えるきっかけになったと思う。また実際にご活躍されている建築家の方々と触れ合うのは、やはりいい経験である。これからもそのような場が多数催されることを期待する。



# 賛助会だより

## 「思 い 」

この度、新しく会報の中で賛助会コーナーを設けていただけるとの事、大変うれしく思います。私もJIA賛助会に入会して、永い年月が経ちますが、最初の頃は若かったし、もともと気が小さい性格ですので、長野県を代表する重鎮の先生方とは、なかなか話をするなどという事は出来ませんでした。

しかし、ある時に転機が訪れました。宮本先生・伊藤先生等と雑談中に「賛助会員がこれだけの賛助をしているのに、会の中核の話についてはつんぼ棟敷になっていて、何をやっているのか、又お金の使われ方も分からるのはおかしいし道理が通らないです」と生意気な事を言ってしまいました。宮本先生が即答で「賛助会には常日頃大変お世話になっており、坂田さんの言う通りだ。役員改選の折、役員として出ていただき我々と一緒に車の両輪と

して進んで行こう」と言われました。次の年役員改選時に理事に笠井賛助会長・西原副会長・会計監事に私が就任しました。

その後は非常に風通しがよくなり、今日に至っている訳です。しかし、近頃は会も「大人の幼稚園」化が進み、自分勝手な方向に行動をしてしまうなど自覚のなさが目につきます。JIAの会員になっている訳ですから、総会・委員会等会議には積極的に参加して、自己研鑽に務めていただきたく存じます。我々賛助会員は皆様のうしろ姿をよく見ております。長野県クラブがよりよくなる為でしたら、我々も労力を惜しません。お互いに切磋琢磨して日本一のクラブにしましょう。



JIA長野県クラブ 賛助会長 坂田 守夫

## 賛助会 新入会員の紹介

(株) 塚田造園 塚田 豊彦

このたびJIA長野県クラブ賛助会員に入会させていただきました株式会社塚田造園の塚田です。

当社は造園を主体に建築の外回りの工事の設計、施工をしています。この近年は長野地域における建築物も住む人(使う人)のニーズにあわせて、多様化してきていると考えます。私たちの造園工事もそれに合わせて施工方法や材料など技術の向上に日々努力、精進しています。建築家の皆様とともにまちづくり、地域づくりの勉強をしていきたいと思っています。そして、緑ふやしてCO<sub>2</sub>削減、地球温暖化防止に少しでも役立つ事が出来ればと願っております。よろしくお願い致します。(メイゲツカエデの前にて)



(有) ナチュラルウッド 南波 健一

この度、賛助会員として入会をさせて頂きました。どうぞ宜しくお願い致します。弊社では、「信州から松」の内・外装材を「南波(みなみ)から松」の名称で製造販売をさせて頂いております。鼻息でも飛んでしまいそうな超繊細ではありますが、から松に対する想いやこだわりを、製品の形でお施主様にお届けしたいと、日々研鑽しております。長年、木材業界に身を置き、木材加工に携わってまいりましたが、自然の力の偉大さには只々感心するばかりです。自然に逆らわず、対話しながら、より良い製品作りを目指し続けたいと思っております。よろしくご指導いただきます様お願い申し上げます。



(株) 富士建商 平井 和広

平成19年度よりJIA長野県クラブ賛助会に入会させて頂きました中野市にあります(株)富士建商の平井和広と申します。当社では新聞紙を原料としたセルロースファイバーの乾式ブローイングによる住宅の断熱工事(デコス・ドライ)を行っております。新聞紙の再利用また、材料の製造過程において石油使用料が石油系断熱材よりも少ないという事で、近年関心の高い地球環境問題にも貢献できるエコ商品だと思っております。日本での需要も伸びてきております。また自然材料を原料とした健康にやさしい塗料(リボス)の販売もしております。今後も当社なりに環境について考えて行きたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## ■今後の行事予定

- 7月8日(日)——まち歩き勉強会(蓼科高原)
- 7月21日(土)——勉強会、技術交流会、納涼会
- 11月末——「愛と情熱の家づくり第4刊」発刊予定

## ■新事務局紹介

久保田啓子さん

5月より山本さんの後任となりました。建築のことは全く素人ですが大変興味があります。長くシステム関係の仕事をしていましたのでマイペースの性格です。気配りが不得手なのでご支援よろしくお願いします。

### 編集後記

会員集会の資料の片隅に、最新の「建築家憲章」が載っていた。JIA会員であることの重みと今の自分の姿勢を考えているうちに、あっという間に毎日が過ぎてゆく。悩みながら、先日登録建築家の更新手続きを終えた。長野県クラブ会報第74号をお届けしました。賛助会報も第4号まで発行されました。今度からは両会報を統合して新たに「賛助会のページ」を設けました。この会報は年4回発行予定で、会員・賛助会員・JIAの本部支部・県内の官公庁や学校へお届けしております。ぜひ皆様からの投稿をお待ちしております。

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。